

# 山口大学メディア基盤センターの設立

=教育・研究・社会貢献でのIT活用へ向けて=

山口大学メディア基盤センター長 松浦 満

高度情報環境整備・活用が大変重要になっている中で、平成14年4月より山口大学総合情報処理センターが改組・充実され、山口大学メディア基盤センターが発足しました。

発足した山口大学メディア基盤センターは、

社会環境・情報コンテンツ部門

情報基盤・ネットワーク部門

地域連携・キャンパス活用部門

の3部門より教授3名、助教授4名、助手2名計9名の専任の教官と技官3名で教育・研究・社会貢献でITを活用した大学の積極的な活動を支援すると共に関連の研究を推進します。3月までの総合情報処理センターでは、定員上は教官助教授1名、技官3名でしたので、一挙に8名も増えたように見え、学内的には「情報関連で何でも対応できるのでは・・・」という期待感があります。実際は流用で助教授2名、助手2名と専任助教授1名計5名の教官でセンター業務をこなしてきましたので、それとの比較では4名が増えたのですが・・・とはいっても、教授3名の定員は汗水をたらして全学の情報環境維持のためにセンターで働く職員にとっても大きな励みになると思っています。また、これまでのセンター職員の献身的な働きもあって教官定員を全学的に出してくれ、センターの整備をさせて頂いたと思っています。センターに対する全学の期待の大きさを感じています。これからの大学にとって情報（IT）技術を事務業務を含めてどう上手に使うかが大学の将来を左右すると思っています。大学としての情報活用を教官・事務と一体となり整備していくことで今後、積極的に動きたいと考えています。

センターは、キャンパスが3つに分かれていることで、山口、常盤、小串の各センターを設置し、本センター・分室の考えでは無く、どこも本センター、本センターはネットワークの中にあると考えて、どこのキャンパスでも活発に活用できる大学全体の高度情報環境整備活用を支援します。とは言っても各キャンパスでの情報環境整備・活用対応がありますので、「基本的にはセンター職員はどこにいても大学全体のために仕事をする」という考えのもとで、とりあえず山口に3人、小串に2人、センター事務がありメインマシンがある常盤に4人の配置でメディア基盤センターの本格的な活動を10月より開始することにしています。

センターの今後の活動のキーの第1番目は、IT活用〔教育活動支援〕です。従来からの先進的な遠隔講義システムに加え、学生へのノートパソコン導入に伴う活用へ向けた講義室整備を進めてきましたが、今後、教官と受講学生との間での講義関連各種IT活用システムの導入、語学教育支援や教育コンテンツの整備配信を含め講義内容・方法の工夫、高度化に向けセンターも積極的に支援したいと考えています。

第2番目は、先端的〔研究活動支援〕です。各種超高速計算処理やスーパーサイネット接続を含めたネットワークの環境整備を進め、先端的な研究展開への対応を進めます。第3番目に教育、研究の方面に関係しますが、附属図書館と連携・協力しデジタル・マルチメディアコンテンツへの対応を含め〔電子図書館的機能の積極的な充実と活用〕があります。

上記の3点及び教務関連を含め事務業務の効率化への協力〕と共に重要と考えておりますのは、〔社会との連携・協力推進〕です。幸い山口県地域は、山口県の情報スーパーネットワーク（YSN）が整備され、高速・大容量のネットワークが整備されております。これも積極的に活用させて頂き、各高等教育機関との遠隔講義・講演会・セミナー、生涯学習・リフレッシュ教育、企業等との共同研究・技術相談推進、社会人教育、小中高校との学校教育支援、遠隔医療、東アジアを含めた諸外国との交流など各種の活動の推進にセンターとしても積極的に協力していきます。このうちの一部の活動では、山口県で発達しているケーブルテレビ網も活用した〔情報発信型の活動〕をキーワードに推進したいと考えています。

なお、附属図書館とメディア基盤センターの連携・協力は高度情報化時代では必須の方向です。両者が協力し、地域社会における「知の広場」として大学機能を支援する中核的な組織として大きな役割が期待されています。今後、次年度に向け、「山口大学学術教育研究情報機構（仮称）」を設置し、連携協力し一体的な運営をすることにより機能強化を図ることを予定しています。また、建物についても両者の「複合建物」にすることで計画中です。ただ、メディア基盤センターになり教官定員が9人になっても（キャンパスが3つに分かれていても）、建物の基準面積は現状では総合情報処理センターのままということで困っています。なんとかしたいというのが実感です。